

日本角膜学会 年次報告書

ANNUAL REPORT OF JAPAN CORNEA SOCIETY

PHOTO REPORT

角膜カンファランス2019 体験記

角膜カンファランス2020に
ようこそ

学術奨励賞受賞者
喜びのコメント



日本角膜学会 年次報告書

ANNUAL REPORT OF JAPAN CORNEA SOCIETY

Vol. 23



3… 理事長挨拶

東邦大学
堀裕一

4… 角膜カンファランス

(第43回日本角膜学会／第35回日本角膜移植学会) 2019を主催して

京都府立医科大学
外園千恵

PHOTO REPORT

**5… 角膜カンファランス2019
学会レポート**

京都府立医科大学
福岡秀記

**8… 角膜カンファランス2020
in 東京ドームホテル**

日本大学
山上聡

**9… 角膜カンファランス過去開催
一覧表／**

学術奨励賞受賞者一覧表

**11… 学術奨励賞受賞者
喜びのコメント**

山形大学
難波広幸

**13… 内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞
1994～2019年度受賞者一覧表**

**15… 内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞者
喜びのコメント**

大森赤十字病院眼科／東邦大学医療センター大森病院
後藤田哲史 (2019年度 内田賞受賞)

東京歯科大学
富田大輔 (2019年度 北野賞受賞)

舞鶴赤十字病院
高原彩加 (2019年度 眞鍋賞受賞)

18… 日本角膜学会 会則

19… 理事会／評議員会議事録など



理事長挨拶

東邦大学
堀 裕一

角膜学会年次報告書 Vol. 23をお届けします。

2019年より、日本角膜学会の理事長を拝命いたしました。昨年は会員の先生方からたくさんの方の叱咤激励、ご指導ご鞭撻をいただき本当にありがとうございました。正直あっという間の1年でした。

2019年にはまず、外園千恵先生(京都府立医科大学)を会長として、角膜カンファレンス2019(第43回日本角膜学会、第35回日本角膜移植学会)が2月7日～2月9日の日程で開催されました。発表演題数232題(一般口演64題、ポスター168題)、参加人数1,019人と非常に盛況な学会でありました。外園先生の京都らしい細やかな心遣いが多数ちりばめられた素晴らしい学会でした。とくに最終日は英語セッションが行われ、シンポジウムや一般演題の英語でのディスカッションがありました。海外からの参加者も非常に多く、角膜学会の国際化の幕開け、といえる学会だったと思います。主催の外園千恵先生および京都府立医科大学眼科医局の先生方、学会のご盛況おめでとうございます。日本角膜学会を代表して御礼を申し上げます。

毎年若手研究者が選ばれる日本角膜学会学術奨励賞ですが、今回の第16回日本角膜学会学術奨励賞は、山形大学の難波広幸先生が選ばれました(研究題名「視機能の加齢変化と、角膜疾患の疫学的検討:山形県コホート研究(舟形町研究)」)。難波先生は以前から角膜疾患の疫学研究を積極的に行っておられ、素晴らしいデータをたくさん出しておられます。今後の益々のご発展を祈念いたします。おめでとうございます。

さて、2020年ですが、今年にはさらに「角膜学会の国際化」に力をいれていきたいと思っています。近年、とくにアジアの角膜研究は非常にレベルが高くなってきています。アジアの先生方を積極的に日本にお招きし、英語でのディスカッションを進めていきたいと思っています。2020年の角膜カンファレンスは、山上聡先生(日本大学)が主催されます。今回、学会長の山上先生のご厚意で、日韓ジョイントシンポジウムを開催できることになりました。韓国角膜学会の理事長である Kyong Yul Seo 先生(ヨンセイ大学)と日本角膜学会学術担当理事である 雑賀司珠也先生(和歌山医科大学)に座長になっていただき、日韓の最先端の角膜研究者をお招きすることができました。是非とも多数の先生方(とくに若い先生)に参加いただき、熱いディスカッションをしていただければと思います。

5月にはボストンで世界角膜学会(World Cornea Congress 2020)が開かれます。日本角膜学会がオーガナイズするシンポジウムも行われる予定ですし、日本から多数の先生方が参加されます。さらに12月にはアジア角膜学会(ACS2020)が大阪で開催されます(2020年12月2日～4日、西田幸二学会長)。日本角膜学会はこのACS2020を全面的に応援し、とくに若い日本の角膜研究者が積極的に世界に出て活躍できるように支援したいと思います。皆様、これらの学会に奮って参加して、日本の角膜研究の素晴らしさを、世界に・アジアに示していきたいでしょう！

角膜カンファランス2019学会レポート

京都府立医科大学
福岡秀記

このたび第43回日本角膜学会総会・第35回日本角膜移植学会を会長を外園教授、事務局長を私としてウェスティン都ホテル京都にて角膜カンファランス2019として開催いたしました。

期間は2019年2月7日(木)～9日(土)の3日間に1,000人を超える参加者を得て、盛会に終了することができました。またCornea Seminarを引き続く2月9日(土)、10日(日)にかけて

開催いたしました。開催に際しましては教室メンバーと関連の方々にて学会当日の運営をご協力いただきました。お陰様にて大きなトラブルもなく無事に学会を終えることができ、皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

角膜カンファランスは、世界トップレベルにある日本の角膜分野の代表的な学会であります。今回の学会の特徴として、シンポジウムとして「皮膚粘膜症候群 up to date」と「翼状片手術のこだわり」の2つを行いました。

「皮膚粘膜症候群 up to date」では、川崎医科大学の皮膚科学青山裕美先生に粘膜類天疱瘡の診断治療を、慶應義塾大学病院の血液内科から岡本真一郎



招待講演 Fung-Rong Hu先生と



シンポジウム 1



シンポジウム 2

先生に皮膚・粘膜の移植片対宿主病について、京都府立医科大学感覚器未来医療学の上田真由美先生、慶應義塾大学の小川葉子先生、山形大学の難波広幸先生には皮膚粘膜症候群の眼科分野よりご講演いただきました。普段診断と治療の難しい疾患であることを再認識し、これからの症例のデータベース作成の必要性について痛感しました。

「翼状片手術のこだわり」では京都府立医科大学の稲富勉先生、埼玉医科大学より小幡博人先生、宮田眼科病院より子島良平先生、Kyungpook National Universityより Kim, Hong Kyun 先生、King Chulalongkorn Memorial Hospital より Puangsricharn, Vilavun 先生から日本だけではなく、海外も含めた様々な翼状片手術のストラテジーなど講演者なりのこだわりについてご講演いただき、日常診療また普段の治療戦略について大いに役立つ内容でした。

また、招待講演には国立台湾大学の Fung-Rong Hu 教授の感染性角膜炎についての講演がありました。いろいろな分子生物学的手法を駆使して感染の起炎菌を同定しようとしており、非常にためになり内容の濃い特別講演とな



ポスター会場



アスレチックの様子



りました。

恒例の角膜カンファランスのアスレチックでは、NPO日本ブラインドサッカー協会のご協力をいただき「OFF TIME～個人向けブラインドサッカー体験プログラム」として眼の不自由な人の体験を通じて、様々な重要なことを感じるプログラムを行いました。自分自身でも参加をしたのですが、アイマスクを通して視覚障害者の模擬体験をすることで全く視覚情報を利用できないため、そのような方々には音の重要性を認識したほか、人と人のコミュニケーションの重要性を再認識しました。

京都開催でインターナショナルなものを目指した角膜カンファランスでした。次年度での角膜カンファランスに想いが繋がればよいなと思いました。



懇親会の様子



優秀ポスター賞受賞者とプレゼンター



教室員集合写真

角膜カンファランス2020 in 東京ドームホテル

第44回日本角膜学会総会・第36回日本角膜移植学会を2020年2月27日(木)～29日(土)に東京ドームホテルで、日本大学医学部主催で開催させていただきます。日本全体で基礎研究を行う研究者人口が減少していることに対する危機感を感じていることもあり、今回の学会のテーマは、「未来を見つめる角膜研究」としました。そこで木曜日と金曜日には、通常の一般講演に加えてエクソソーム研究の第一人者の金沢大学医学系免疫学の華山力成教授に「細胞外小胞エクソソームによ

る疾患の発症機序」というタイトルでエクソソームの臨床につながる基礎研究分野のご講演と千葉大学長寿医学の真鍋一郎教授に「臓器連関によるストレス応答と慢性炎症性疾患の拡大」というタイトルで眼科の各分野での研究につながるような示唆に富むご講演をお願いしております。また日韓ジョイントシンポジウムと題して、アジアを代表する日韓の角膜研究の最前線を日本と韓国の各2名の演者からコンパクトにまとめていただく予定となっています。

木曜日と金曜日にも臨床に関する多くの一般口演が予定されていますが、土曜日は臨床に関する発表のみとなり例年よりも少し遅い午後3時まで一般口演と臨床のシンポジウムを行います。シンポジウムは、ディベート形式で「翼状片の治療ー私はこれを薦めるー」「これから10年 臨床現場で有用な水疱性角膜症の治療はこれだ！」「点状表層角膜症の発症機序と治療」の三つのテーマについて3名の演者からそれぞれの立場で講演をしていただき、十分な討論をしていただきます。また臨床口演の土曜日だけの参加をご希望の方々に対して、参加登録がしやすいように1dayパスを設定しましたのでこちらも是非ご利用ください。

ポスター発表では例年どおり優秀ポスター賞を角膜学会の30名の評議員



日本大学
山上聡

および角膜移植学会の理事によりご判断いただきますが、一般口演におきましても1セッション4題以上の一般口演におきましては、各セッションで発表の重要性、新規性、プレゼンテーション力などを評価基準として優秀口演賞を設定し表彰していきたいと思います。優秀口演賞獲得を目指して是非とも力のこもった口演をお願いできればと思います。

また今回の角膜カンファランスのアスレチックは、各チーム4人構成で戦うボーリング大会にしました。女性には1ゲーム50点のハンデを設けましたので女性が多いチームの方が有利かもしれません。金曜日の午後5時過ぎの時間帯ですので、アルコールのサービスマも検討中で楽しく戦っていただきたいと思います。表彰は引き続き行われます懇親会でいたしますのでご参加ください。

よく学び、よく遊びの角膜カンファランスの伝統を守る有意義な3日間にしたいと思いますので是非ともご参加のほどよろしくお願い申し上げます。



角膜カンファランス過去開催一覧表

回数	日時	場所	世話係	演題数	
1	1977年2月26日	霞が関ビル 33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	16
2	1978年2月25日	関電ビル 2F 関電会館	大阪	眞鍋禮三	10
3	1979年2月17日	霞が関ビル 33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	15
4	1980年2月24日	大阪中之島センタービルロイヤル NCB 会館 3F 会議室 3号	大阪	眞鍋禮三	21
5	1981年3月1日	霞ヶ関ビル33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	28
6	1982年5月20日	国立京都国際会館	京都	眞鍋禮三	35
7	1983年5月19日	国立京都国際会館	京都	眞鍋禮三	35
8	1984年2月26日	イカリビル 2F 大ホール	大阪	眞鍋禮三	40
9	1985年2月16日、17日	日光金谷ホテル	栃木	大原國俊	56
10	1986年2月28日、3月1日	八幡平リゾートホテル	岩手	田澤 豊	57
11	1987年2月13日、14日	大磯プリンスホテルプリンスホール	神奈川	金井 淳	55
12	1988年2月19日、20日	宝塚ホテル	兵庫	眞鍋禮三	78
13	1989年2月24日、25日	北海道大学学術交流会館	札幌	松田英彦	84
14	1990年2月1日、2日	東京ベイヒルトンインターナショナルホテル	東京 千葉	北野周作 崎元卓	109
15	1991年2月8日、9日	筑波大学大学会館	茨城	本村幸子	114
16	1992年1月31日、2月1日、2日	パシフィコ横浜	神奈川	増田寛次郎	139
17	1993年1月2日、23日、24日	白浜・ホテルシーモア	和歌山	大鳥利文	157
18	1994年2月18日、19日、20日	すみだリバーサイドホテル浅草ビューホテル	東京	宮永嘉隆	188
19	1995年2月9日、10日、11日	都ホテル	京都	木下茂	180
20	1996年2月16日、17日、18日	恵比寿ガーデンプレイス内ザガーデンホール	東京	小口芳久	187
21	1997年2月7日、8日、9日	愛媛県県民文化会館	愛媛	大橋裕一	183
22	1998年2月13日、14日、15日	賢島 宝生苑	三重	杉田潤太郎	204
23	1999年2月11日、12日、13日	宇部全日空ホテル	山口	西田輝夫	175
24	2000年2月17日、18日、19日	東京ベイホテル東急	千葉	坪田一男	184
25	2001年2月8日、9日、10日	りんくう国際会議場全日空ゲートタワーホテル大阪	大阪	下村嘉一	202
26	2002年2月21日、22日、23日	パシフィコ横浜	神奈川	澤 充	208
27	2003年2月20日、21日、22日	軽井沢プリンスホテル西館	長野	村松隆次	200
28	2004年2月19日、20日、21日	米子コンベンションセンター(ビッグシップ)	鳥取	井上幸次	237
29	2005年2月17日、18日、19日	徳島プリンスホテル	徳島	塩田 洋	201
30	2006年2月9日、10日、11日	東京ビッグサイト TFT ホール	東京	大鹿哲郎	200
31	2007年2月9日、10日、11日	ワールドコンベンションセンター	宮崎	宮田和典	220
32	2008年2月28日、29日、3月1日	東京ベイホテル東急	東京	天野史郎	221
33	2009年2月19日、20日、21日	ザ・リッツ・カールトン大阪	大阪	前田直之	216
34	2010年2月11日、12日、13日	仙台国際センター	仙台	西田幸二	198
35	2011年2月17日、18日、19日	品川プリンスホテル	東京	高橋 浩	200

回数	日時	場所	世話係	演題数	
36	2012年2月23日、24日、25日	ホテルニューオータニ	東京	山口達夫	214
37	2013年2月14日、15日、16日	和歌山県立町立総合体育館・白浜健康館	和歌山	雑賀司珠也	229
38	2014年1月30日、31日、2月1日	沖縄コンベンションセンター	沖縄	島崎潤	264
39	2015年2月11日、12日、13日	高知市文化プラザかるぽーと	高知	福島敦樹	227
40	2016年2月18日、19日、20日	軽井沢プリンスホテルウエスト	長野	清水公也	232
41	2017年2月16日、17日、18日	アクロス福岡	福岡	内尾英一	225
42	2018年2月15日、16日、17日	グランドプリンスホテル広島	広島	近間泰一郎	231
43	2019年2月7日、8日、9日	ウエスティン都ホテル京都	京都	外園千恵	232

学術奨励賞受賞者一覧表

年度	回数	受賞者	所属
2003年	第1回	榛村重人	東京歯科大
		中村隆宏	京都府立医大
2004年	第2回	堀 純子	日本医大
		川崎 諭	京都府立医大
2005年	第3回	加治優一	筑波大臨床医学系
		小泉範子	京都府立医大
2006年	第4回	川北哲也	東京歯科大市川総合病院
		福田 憲	山口大
2007年	第5回	山田潤	明治鍼灸大
		小林 顕	金沢大
2008年	第6回	臼井智彦	東京大
		平岡孝浩	筑波大臨床医学系
		堀 裕一	大阪大
2009年	第7回	有田玲子	東京大、伊藤医院
		井上智之	大阪大
2010年	第8回	川島素子	慶應大
		森重直行	山口大
2011年	第9回	奥村直毅	京都府医大
		柳井亮二	山口大
2012年	第10回	羽藤 晋	慶應大
		中司美奈	京都府医大
2013年	第11回	崎元 暢	日本大
		鈴木 崇	愛媛大
2014年	第12回	高 静花	大阪大
		平山雅敏	慶應大
2015年	第13回	大家義則	大阪大
		山口剛史	東京歯科大
2016年	第14回	北澤耕司	京都府医大
		林 竜平	大阪大
2017年	第15回	猪俣武範	順天大
		内野裕一	慶應大
2018年	第16回	難波広幸	山形大

難波 広幸 (山形大学)

一般日本人における視機能の加齢変化解析と、 前眼部疾患有病率の確立



この度は栄誉ある第16回日本角膜学会学術奨励賞を賜りまして、大変光栄に思います。何もわからない新米の頃よりご指導いただいております山形大学眼科学講座の山下英俊教授、山形県コホート研究を牽引いただいております先進医学講座の嘉山孝正特任教授、疫学の基礎もわからない私にご指導いただきました大阪大学視覚情報制御学講座の川崎良教授、また共に臨床を行い、研究を支えてくれる医局の皆様篤く御礼を申し上げます。

この賞は私が眼科の世界に足を踏み入れ、角膜分野を志してより常に憧れでした。それだけに非常に感慨深いものがございます。思い返しますと初めての角膜カンファランスは初期研修2年目、当学で角膜分野を担当されていた高橋義徳先生と共に参加させていただきました。発表内容の学術性に加えて、懇親会のアットホームな雰囲気強く印象に残っています。このなかで

仕事がかた、認められたいという願望はありましたが、そこに至る道筋はイメージできていませんでした。

転機は二度あったと思います。一つは入局後に京都府立医科大学に見学に伺ったことです。臨床面を中心に勉強させていただきましたが、私にとって更に大きかったのは、そこで出会った先生方に、その後も仲良くしていただいたことです。単独行動が多い私にとって、学会の際にお声がけいただけただことは、継続して参加する意欲を保つために大きかったと思います。諸先輩方にご指導いただき、同年代に仲間が増えてきたことが、私をアカデミーの隅につなぎとめてくれました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

二つ目は、関連病院から大学に戻った後に、山形県コホート研究(舟形町研究)の疫学データを扱うようになったことです。2000年に山下教授と川崎先生が眼科検診を立ち上げ、当初は網

膜疾患を中心に検討されていました。2012年に私がかかわるようになってからは波面センサーや前眼部OCTなどの検査を追加し、前眼部分野の検討を追加しています。統計など数字を扱うことは苦手でしたが、自分の置かれた状況で、できることから始めた形です。

結果的に、乱視や高次収差の経年変化、また翼状片や滴状角膜などの有病率について学会、論文で発表させていただきました。今回の受賞もその内容によるもので、継続性もご評価いただいたものと理解しています。正直なところ、憧れて続けてきた角膜分野の諸先輩方には遠く及びませんが、皆様に引き立てていただいてここまで来ることができました。この賞に恥じることはないよう、今後も研鑽を積んでいきたいと考えております。これからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



沖縄での1枚 皆さん若い!



2019年角膜カンファランスのアスレチックにて
東北大学、長崎大学の皆さんにご一緒させていただきました。



内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞 1994～2019年度受賞者一覧表

★1994年(第18回角膜カンファランス・第10回日本角膜移植学会)

内田賞	西川都子(近畿大)	インターロイキンによる実験的角膜炎	
北野賞	細見雅美(神戸海星病院)	角膜潰瘍に対するヒアルロン酸点眼薬の効果	
眞鍋賞	木佐貫操(神戸大)	Werner症候群の角膜における細胞増殖能についての組織学的検討	

★1995年(第19回角膜カンファランス・第11回日本角膜移植学会)

内田賞	近藤順子(眼科杉田病院)	強角膜片保存中の内皮細胞検査(アイバンク用スペキュラーマイクロスコープ)	角膜学会誌第1巻184頁
北野賞	吉田裕司(東京工芸大)	生体眼での複屈折効果(その1)-角膜形状応用力状態の計測-	角膜学会誌第1巻187頁
眞鍋賞	長田さやか(金沢大)	アトピー性皮膚炎患者の角膜形状の検討	角膜学会誌第1巻189頁

★1996年(第20回角膜カンファランス・第12回日本角膜移植学会)

内田賞	吉野真未(慶應大)	骨髄移植に伴うドライアイ	眼紀第48巻453-455頁、 角膜学会誌第2巻158頁
北野賞	渡辺牧夫(高知医大)	約2年間のソフトコンタクト連続装用による細菌性角膜潰瘍の一例	眼紀47巻1054-1058頁、 角膜学会誌第2巻75頁
眞鍋賞	新妻卓也(女子医大第二)	PRK後の不可逆性上皮下混濁の組織変化	眼紀第47巻1464-1467頁、 角膜学会誌第2巻56頁

★1997年(第21回角膜カンファランス・第13回日本角膜移植学会)

内田賞	光本拓也(佐賀医大)	角膜細胞の新しい単離培養法(短冊法)の試み	角膜学会誌第3巻137頁
北野賞	木村内子(東芝病院)	幼児角膜を用いた全層角膜移植の長期予後ラット全層角膜移植モデルにおけるドナー	角膜学会誌第3巻139頁
眞鍋賞	皆本敦(広島大)	角膜に対する紫外線照射の効果	角膜学会誌第3巻146頁

★1998年(第22回角膜カンファランス・第14回日本角膜移植学会)

内田賞	内田幸男選考委員ご逝去につき今回は北野賞・眞鍋賞のみとし、各2名ずつ選ぶことになった。		
北野賞	①渡辺仁(大阪大)	ケラトエピテリン関連角膜変性症の遺伝子異常の違いによる臨床所見の相違	Ophthalmology, 角膜学会誌第4巻113頁
	②光本拓也(佐賀医大)	角膜内皮の修復;細胞外基質と成長因子を関連させた内皮修復の解析法	角膜学会誌第4巻115頁
眞鍋賞	①足立和加子(京都府医大)	ヒト角膜上皮に特異的な新規カテプシンのクローニング	角膜学会誌第4巻113頁
	②佐藤敦子(日本大)	自動角膜厚測定装置(SP-2000P)の臨床的評価	眼紀第50巻18-21頁

★1999年(第23回角膜カンファランス・第15回日本角膜移植学会)

内田賞	新田卓也(北海道大)	細菌アレルギーの関与する慢性角結膜炎に対するテトラサイクリン内服療法	角膜学会誌第5巻105頁
北野賞	川崎諭(京都府医大)	眼表面疾患慢性期における結膜浸潤細胞	角膜学会誌第5巻102頁
眞鍋賞	平野耕治(名古屋大)	光学的干渉断層計(OCT)の角膜疾患診断への応用について	角膜学会誌第5巻111頁

★2000年(第24回角膜カンファランス・第16回日本角膜移植学会)

内田賞	村戸ドール(神戸海星病院)	エキシマレーザー治療的角膜切除術後の眼表面所見の原疾患別検討	角膜学会誌第6巻98頁
北野賞	弓狩純子(女子医大)	アトピー性角膜炎の角膜上皮障害における好酸球とエオキタシンの関与	角膜学会誌第6巻80頁
眞鍋賞	八木明美(静岡県アイバンク)	静岡県アイバンクの幹旋に関する統計調査(1982-1999)	角膜学会誌第5巻111頁

★2001年(第25回角膜カンファランス・第17回日本角膜移植学会)

内田賞	Zheng Xiaodong(愛媛大)	アカントアメーバはヒト角膜上皮細胞アポトーシスを誘導する	角膜学会誌第7巻123頁
北野賞	月山純子(近畿大)	角膜上皮創傷治癒におけるプロスタグランジンの作用機序について	角膜学会誌第7巻123頁
眞鍋賞	加賀谷文絵(東京大)	ヒト羊膜上皮培養上清は角膜移植後の血管新生を抑制する	角膜学会誌第7巻128頁

★2002年(第26回角膜カンファランス・第18回日本角膜移植学会)

内田賞	中川裕子(徳島診療所)	眼圧上昇を伴う重篤な角膜ドウ膜炎を呈したムンプス	角膜炎の1例角膜学会誌 第8巻35頁
北野賞	尾藤洋子(京都府医大)	結膜弛緩症の多数例に対する涙液メニスカス再建術の検討	角膜学会誌第8巻80頁
眞鍋賞	藤田聡(東京医大)	レシピエント角膜上皮を温存した角膜移植術	角膜学会誌第8巻87頁

★2003年(第27回角膜カンファランス・第19回日本角膜移植学会)

内田賞	大宮勝美(羽曳野病院)	両眼性・多発性の角膜上皮嚢胞を示した1症例	角膜学会誌第9巻87頁
北野賞	大野健治(国立東京医療センター)	病状説明でのフルオレセイン・ブルーフリーシステムの有用性	角膜学会誌第9巻71頁
眞鍋賞	遠藤健一(京都府医大)	羊膜上皮基底膜におけるIV型コラーゲンα5鎖の発現・角膜上皮基底膜との類似性	角膜学会誌第9巻90頁

★2004年(第28回角膜カンファランス・第20回日本角膜移植学会)

内田賞	茂田今日子(銚子市立総合病院)	角結膜疾患患者における涙液中ケモカインの検討	角膜学会誌第10巻158頁
北野賞	酒井理恵子(自治医大)	ヒト角膜内皮細胞に高発現するCESP-1の特異抗体作製と細胞内局在	角膜学会誌第10巻152頁
眞鍋賞	前田政徳(近畿大)	結膜弁被覆を併用した人工角膜手術	角膜学会誌第10巻170頁

★2005年(第29回角膜カンファランス・第21回日本角膜移植学会)

内田賞	鴨居瑞加(立川共済病院)	涙液分泌低下型ドライアイにおける涙液蒸発率と涙液油層状態	角膜学会誌第11巻78頁
北野賞	板橋幹城(近畿大)	WVGV、GVACVのヘルペス性角膜上皮炎への効果	角膜学会誌第11巻87頁
眞鍋賞	渡邊和誉(兵庫アイバンク)	献眼情報より臓器および組織提供に結びついた1例	

★2006年(第30回角膜カンファランス・第22回日本角膜移植学会)

内田賞	張巍(愛媛大)	Frameshift Mutationによるアシクロビル耐性角膜ヘルペスの1例	角膜学会誌第12巻109頁
北野賞	寺井典子(京都府医大)	マウス角膜の分化・成熟におけるケラチン12の発現	角膜学会誌第12巻97頁
眞鍋賞	諸星計(鳥取大)	CCR5・CXCR3欠損マウスにおける角膜移植後拒絶反応の検討	角膜学会誌第12巻104頁

★2007年(第31回角膜カンファランス・第23回日本角膜移植学会)

内田賞	林竜平(東北大)	角膜輪部上皮におけるN-cadherin発現細胞の解析	
北野賞	林孝彦(横浜市大)	マウス水疱性角膜症眼に対するアロ角膜内皮細胞移植とアロ全層角膜移植の免疫反応	
眞鍋賞	石丸慎平(獨協医大)	深部表層角膜移植【DLKP】術にて摘出された角膜の組織学的検討	

★2008年(第32回角膜カンファランス・第24回日本角膜移植学会)

内田賞	佐藤エンリケ アダン(慶應大)	レーザー生体共焦点顕微鏡によるシェーグレン症候群 症例の涙腺炎症状態の観察	
北野賞	子島良平(富田眼科病院)	アカントアメーバに対する薬剤感受性試験の検討	
眞鍋賞	入江真理(富山県アイバンク)	富山県アイバンクの15年の活動報告	

★2009年(第33回角膜カンファランス・第25回日本角膜移植学会)

内田賞	三村達哉(東京大)	角膜血管新生におけるin vitroでのMT1-MMPのDecorin分解	
北野賞	長谷川美恵子(大手前病院)	フルオロキノロン耐性を示した感染性角膜潰瘍の3例	
眞鍋賞	横川英明(金沢大)	Busin グライド使用に伴う内皮障害評価—新鮮ヒト角膜を用いた実験—	

★2010年(第34回角膜カンファランス・第26回日本角膜移植学会)

内田賞	山田直之(山口大)	フィブロネクチン由来ペプチド PHSRN 点眼が著効した神経麻痺性角膜症の1例	
北野賞	竹田一徳(京都府医大)	急性期眼表面疾患に対する自己培養口腔粘膜上皮移植術の臨床成績	
眞鍋賞	田中寛(京都府医大)	眼表面疾患患者のMRSA 保菌に関する検討	

★2011年角膜カンファランス(第35回日本角膜学会・第27回日本角膜移植学会)

内田賞	吉田悟(慶應大)	角膜実質の再生医療に向けた神経堤幹細胞のiPS細胞からの誘導	
北野賞	松永透(順天大)	リン酸基含有ハイドロゲルをデバイスとした前眼部へのTACSTD2 遺伝子導入	
眞鍋賞	中村孝夫(大手前病院)	無水晶体眼水疱性角膜症に対する角膜内皮移植	

★2012年角膜カンファランス(第36回日本角膜学会・第28回日本角膜移植学会)

内田賞	水戸毅(愛媛大)	アカントアメーバへのphotodynamic therapy (PDT): 抗アメーバ薬との併用効果の検討	
北野賞	小林剛(愛媛大)	マウス表皮細胞から形質転換した角膜上皮様細胞の免疫組織学的検討	
眞鍋賞	中川紘子(京都府医大)	同一ドナーから提供を受けた2眼を使用した角膜内皮移植での角膜内皮細胞密度の経過	

★2013年角膜カンファランス(第37回日本角膜学会・第29回日本角膜移植学会)

内田賞	伊藤吉将(近畿大・薬)	薬物ナノ粒子分散液の調製と点眼製剤としての応用性:ナノ粒子分散液の角膜傷害性評価
北野賞	松永透(順天大)	膠様滴状角膜ジストロフィ角膜上皮細胞へのTACSTD2遺伝子導入・機能発現
眞鍋賞	稲垣絵海(慶應大)	マウス角膜実質幹細胞の細胞移植

★2014年角膜カンファランス(第38回日本角膜学会・第30回日本角膜移植学会)

内田賞	近間泰一郎(広島大)	非接触高倍対物レンズを用いたレーザー生体共焦点顕微鏡による病原微生物の観察
北野賞	森重直行(山口大)	角膜実質コラーゲン線維束構造の解剖学的特徴
眞鍋賞	島伸行(東京大)	角膜の曲率適合型培養ヒト角膜内皮細胞シートの有効性・安全性の評価

★2015年角膜カンファランス(第39回日本角膜学会・第31回日本角膜移植学会)

内田賞	高橋広樹(東京医科大学)	角膜内ランゲルハンス細胞の動態
北野賞	北澤耕司(京都府立医科大学/京都大学IPS細胞研究所)	CRISPR/Cas9を用いてPAX6をノックアウトしたヒト角膜上皮細胞の検討
眞鍋賞	稲富 勉(京都府立医科大学)	Descemet membrane endothelial keratoplastyにおける角膜厚と視力推移の検討

★2016年角膜カンファランス(第40回日本角膜学会・第32回日本角膜移植学会)

内田賞	田島一樹(慶應大外科・東京医大)	病原遺伝子の網羅的検索による多剤耐性緑膿菌角膜炎の病原性解析
北野賞	稲垣絵海(慶應大)	ヒト皮膚幹細胞由来の誘導角膜内皮細胞におけるポンプ機能解析
眞鍋賞	石居信人(旭川医大)	角膜内皮移植の予後に関連する因子

★2017年角膜カンファランス(第41回日本角膜学会・第33回日本角膜移植学会)

内田賞	石川 幸(大阪大)	ヒトiPS細胞由来角膜上皮細胞の長期培養
北野賞	北本昂大(東京大)	顆粒状角膜変性症に対するCRISPR/Cas9を用いた遺伝子編集
眞鍋賞	柿栖康二(東京歯大)	海外ドナー角膜の術前温度管理が角膜内皮移植術後の内皮細胞密度に与える影響

★2018年角膜カンファランス(第42回日本角膜学会・第34回日本角膜移植学会)

内田賞	成松明知(東京医大)	角膜緑膿菌感染におけるリンパ管の役割の検討
北野賞	難波広幸(山形大)	乱視ベクトル解析と10年間の経時変化:山形県コホート研究(舟形町研究)
眞鍋賞	福井佑弥(同志社大)	ブタ脱細胞化角膜シートのサンドイッチ移植法による角膜補強の有用性の検討

★2019年角膜カンファランス(第43回日本角膜学会・第35回日本角膜移植学会)

内田賞	後藤田哲史(大森日赤)	東邦大学医療センター大森病院における非外傷性角膜穿孔の原因と治療についての検討
北野賞	富田大輔(東京歯大・市川)	水疱性角膜症における涙液と前房水のサイトカインの関連性
眞鍋賞	高原彩加(舞鶴日赤)	DSAEK後に再移植を必要とした症例における角膜内皮細胞減少に関わる因子の検討

後藤田 哲史 (大森赤十字病院眼科/東邦大学医療センター大森病院)

2019年度 内田賞を受賞して



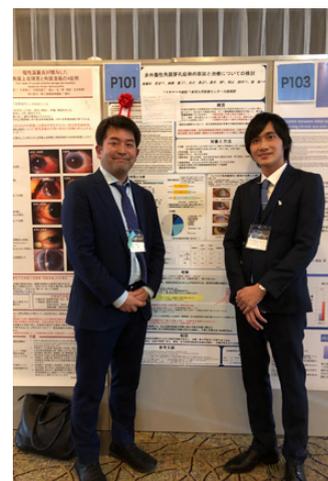
この度は、名誉ある内田賞を受賞し、大変嬉しく思うとともに、ご支持くださいました選考委員の先生方、並びに東邦大学の堀裕一教授をはじめとした角膜班の先生方に厚く御礼申し上げます。

今回私は、「非外傷性角膜穿孔症例の原因と治療についての検討」という内容で発表させていただきました。非外傷性角膜穿孔は発症すると眼球構造の破綻を引き起こす、最も深刻で緊急を要する角膜疾患の一つであり、早急な診断と治療が必要となります。現在までに角膜穿孔を扱った論文は散見されますが、その多様な病態から、現時点では定められた診断・治療のガイドラインはありません。今回私たちは、非外傷性角膜穿孔における発症時の感染の有無と自己免疫性疾患の既往の有無に着目し、4群での病態の治療成績を検討することで、角膜穿孔において、発症時の感染・非感染の違いと自己免疫性疾患の既往が相互に関与し、治療予後、再発率が変化することを発見しました。この結果から、初期評価の段階でこれらの因子を念頭に置き、治療計画や治療予後を検討する必要があることを考察しました。

私は臨床を通じて失明に苦しむ多くの患者と接するなかで、網膜疾患や緑内障だけでなく、角膜穿孔という、慢性的な疾患が多い角膜分野のなかでも、緊急性の高い本疾患に興味をもちました。しかし角膜分野での初めての本格



アスレチック大会にて 東邦大学の角膜班で



東邦大学 鈴木崇先生と

的な研究だったため、実際に何から手を付けていいのか模索するなか、堀裕一教授を含め、角膜班の先生方のご指導を受けながら、日々データ収集と論文探しに奔走したのを思い出します。大森赤十字病院に外向してから、日々の診療・手術を終えた後に情報収集したり、議論したりするために大学へ行く日々が続き体力的にも大変でしたが、今となっては臨床・研究ともに多くのことを学ばせてもらう機会になったと思います。

堀裕一教授には、当初から角膜の臨床研究に関することや論文の書き方など様々な面でいつも親身に教えていただき、本当に感謝しております。同じく、東邦大学の鈴木崇先生には角膜・感染症分野の豊富な経験と知識で、いつも斬新なアイデアやアドバイスをいただき、研究を支えていただいております。大森赤十字病院眼科部長の秋山朋代先生

にも、臨床の合間に研究に関するご指導をいただき大変お世話になりました。

また、私が横浜市立大学で網膜の臨床研究をしていた頃、眼科臨床研究の手法・手技を一から教えていただき、その後も私の角膜分野への興味に対して、背中を押していただいた門之園一明教授には感謝しかありません。

こうしてまだ角膜の研究を始めて間もない私がこのような賞をとれたのは、自分の信念を尊重していただき支えていただいた多くの先生方のお力添えがあったからこそだと思っております。この場を借りて御礼を申し上げます。今後私は、角膜分野を修行し、臨床研究でも更に良い成果を出していけるように頑張りたいと思います。まだまだ未熟者ですので、引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。

富田 大輔 (東京歯科大学)



2019年度 北野賞を受賞して

この度、角膜カンファランス2019年にて学術展示で発表させていただいた「水疱性角膜症における涙液と前房水のサイトカインの関連性」という研究報告で北野賞という大変に荣誉ある賞を受賞することができました。ご指導いただいた東京歯科大学市川総合病院の島崎潤教授、山口剛史先生をはじめ、スタッフの先生方、また、本研究を選んでくださいました日本角膜学会評議員ならびに学会関係者の先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

水疱性角膜症に対しての角膜内皮移植術は世界的にも一般化しており、近年の角膜移植の大きな割合を占めています。しかし、これだけ浸透してきた角膜内皮移植術でも、患者さんの予後が全員よいわけではなく、なかには恐ろしいスピードで内皮細胞が減り続けたり、一度も透明治癒せずに内皮機能不全に陥

る患者さんもいます。一般的に、手術中の影響で内皮細胞が急激に減ることは知られていますが、それ以降の内皮細胞減少と関連している原因については不明です。我々は近年、虹彩損傷の程度や前房水サイトカインが関連していることを確認し、それらの測定・解析など前房内環境の研究を深めています。その一環として、本研究では、涙液サイトカインと前房水サイトカインの関連について検討しました。涙液サイトカインを測定することは、測定方法やドライアイや様々な点眼などの眼の状態や外的因子の影響を受けます。その一方で、非侵襲的に、簡単にサンプルを採取できるため、もし涙液と前房水のサイトカインに何らかの関連性があれば、バイオマーカーとして臨床に非常に役に立つと考えました。

結果は、唯一、水疱性角膜症群にのみ、

いくつかの涙液と前房水のサイトカインや蛋白に相関を認めました。水疱性角膜症の角膜内皮細胞は、生体共焦点レーザー顕微鏡で確認すると細胞の変性が著明であり、角膜内皮バリアが破綻しています。すると、炎症性サイトカインが上昇している前房水が実質内に流入し、実質内の樹状細胞を刺激し、遊走・活性化を促すことで、炎症を惹起し、角膜上皮バリア機能の低下やインターロイキン(IL)-4やIL-8の上昇を起こしている可能性が示唆されて、前房水環境が実質を越え涙液状態にも影響すると考えました。今は実質内や角膜内での変化について更なる研究を進めています。

現在、角膜内皮移植術は世界で最も施行されている角膜移植であり、移植した角膜の予後を判断する一つの要因となる前房内環境を理解し、それを把

握できるバイオマーカーとして涙液サイトカインの役割は重要であると思います。本研究を指導して下さった島崎先生、山口先生に心から感謝したいと思います。本賞を励みとし、研究者として、また眼科医として研鑽を積んでまいりたいと思いますので、今後も御指導、御鞭撻の程よろしくお願いいたします。



毎年恒例の歯科大同窓会「アムルナイト」にて



山口先生、比嘉先生と受賞記念の1枚

高原 彩加 (舞鶴赤十字病院)

2019年度 眞鍋賞を受賞して



この度、角膜カンファランス2019において大変名誉ある眞鍋賞を受賞させていただきました。選考してくださった先生方、日頃からご指導いただいている外園千恵教授、木下茂教授をはじめ医局員の先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今回私は「DSAEK後に再移植を必要とした症例における角膜内皮細胞減少に関わる因子の検討」という内容で研究発表させていただきました。私は現在舞鶴赤十字病院で診療を行っていますが、所属している京都府立医科大学で定期的に研修をさせていただいております。研修中は稲富勉先生にご指導をいただいているなか、この内容につき研究を開始いたしました。

DSAEKの5年生存率は約80%と良好ですが、そのなかでもやはり早期に移植片機能不全となる症例は存在します。本研究では術後5年以内と早期に移植片機能不全となり再移植を要した症例につき検討し、早期の角膜内皮細胞減少にかかわる因子を検討いたしました。まずは早期移植片機能不全には原疾患(とくに緑内障)が強く影響していると示すことができました。また角膜内皮細胞密度の減少率につき、手術条件と関連の大きい術後3カ月までは早期再移植を要した群と要さなかった群においてとくに有意差を認めなかったのに対し、術後6カ月以降では有意差を

認めました。術後1年での角膜内皮細胞密度の減少率は角膜透明性維持期間と相関することも判明し、このことからDSAEK術後の経過は手術条件よりもhostの前房環境に大きく左右されると考えられます。

今回初めてのポスター発表だったこともありすべて手探りで進めているなか、対象を絞ること自体にも苦労したり、なかなか分析がうまくできなかったりと、研究の難しさをひしひしと感じました。検討したものの力及ばず結果を出すには至らなかった内容も多々あります。そんななか、本当にたくさん先生の先生方に助けていただき今回何と

か形にでき、このような栄誉ある賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。この経験を糧に、これからも日々精進していきたいと思っております。

最後になりますが、外園教授、稲富先生、ならびに脇舩先生をはじめ多くの先生方にお忙しい中で助力をいただき、誠にありがたく思います。どれだけ感謝しても足りません。これからはまずは日々の診療、手術のスキルを上げ、同時に研究の精神も忘れず研鑽を積んで参りたいと思っておりますので、今後ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



稲富先生とポスターの前で

日本角膜学会 会則

第1章 名称・事務局

- 第1条 本会は日本角膜学会(Japan Cornea Society)と称する。
第2条 本会の事務局は、〒567-0047 茨木市美穂ヶ丘3-6 山本ビル302号室日本眼科紀要会内に置く。

第2章 目的および事業

- 第3条 本会は角膜・眼表面に関する基礎的、臨床的研究を通して、これに関わる疾患の診断と治療の発展に資することを目的とする。
第4条 本会は第3条の目的を遂行するために次の事業を行う。
1) 学術集会の開催
評議員会で会長を指名し、その会長が年1回の学術集会(日本角膜学会総会)を日本角膜移植学会と併催する。
2) 学会誌の発行
年1回発行する。
3) 日本アイバンク協会、日本失明予防協会などの関係諸団体と協力し、活動に関係した講習会、研究、社会貢献(市民公開講座)を開催する。
4) その他、本会の目的に沿った事業を行う。
5) 倫理規定と利益相反(COI)を決める。

第3章 会員

- 第5条 会員は角膜・眼表面の研究に従事する者およびこれに準ずる者で、第6条の所定の手続きを完了したものとす。
第6条 本会に入会を希望する者は規定の申込用紙に必要事項を記入し、会費をそえて事務局に申込み、理事会の承認を受けることとする。
第7条 退会を希望する者は退会届けを事務局に提出しなければならない。ただし、3年以上会費払い込みのない者は自動退会とする。また、本会の名誉を著しく傷つける行為のあった者は理事会の議決を経て除名することができる。
第8条 休会を希望する者は休会届けを事務局に提出しなければならない。
第9条 会員は学術集会に参加し研究発表を行うことができる(筆頭発表者は会員に限る)。
第10条 本会に法人会員を置くことができる。法人会員は理事の推薦を受け、評議員会で承認を得なければならない。
第11条 本会に名誉会員を置くことができる。名誉会員は65歳以上の会員で、理事長経験あるいは10年以上の理事歴を有し、本人が承諾した者。名誉会員は評議員会に参加して意見を述べるができるが、議決には関与できない。名誉会員は理事会で推薦を受け、評議員会で承認を得なければならない。

第4章 評議員

- 第12条 本会に30名の評議員を置く。
第13条 評議員は有権者の投票にて立候補者から30名選出される(選挙は2年に1回、無記名、10名~20名連記で行う)。評議員の選挙は評議員会で選出された4名の選挙管理委員によって施行される。評議員の任期は1月1日から翌年の12月31日とする。なお、有権者とは、会員のうち選挙施行年度の会費の支払いが指定された期日までに終了している者とする。

第5章 役員(理事および監事)

- 第14条 理事は選任年の1月1日に65歳未満である者で、評議員の

中から投票によって8名選出される。理事長は理事の投票によって選出される。理事長は理事以外の評議員の中から監事2名を指名する。

- 第15条 理事長は本会の会務を総括する。理事長の任期は1期2年とし、再任は永久に妨げる。また、理事長が任期中、何らかの事故に遭遇し、その職務を遂行できなくなった場合、理事会がその職務を代行する。理事長ならびに役員は次の理事長ならびに役員が決定するまでその職務を代行する。
第16条 理事の職務は、会計、学術、編集、渉外・社会保険、総務、研究、記録の7分野で、各理事が各々の分野の責任者となり、理事長が総括する。
第17条 役員の任期は、3月1日から翌々年の2月末日までの2年とし再任を妨げないが、連続2期を超えて重任することはできない。
第18条 役員に欠員が生じた場合は、投票結果の次点者を充てる(任期は前任者の任期の残りを充てる)。
第19条 役員、評議員は無給とする。

第6章 会議

- 第20条 会議は総会、評議員会、理事会とし、理事長がこれらを招集し、その議長を務める。また、理事会には、役員その他、当年度および次年度の会長が出席する。
第21条 総会、評議員会、理事会は年1回開催されるが、理事長は必要に応じて臨時に総会、評議員会、理事会を招集することができる。
第22条 理事会は本会の運営方針に関する重要事項について立案し、評議員会に提案するとともに、評議員会での決定事項を実行する。
第23条 評議員会は理事会での提案事項を協議し、決定する。
第24条 総会では、理事長が理事会および評議員会での決定事項を報告する。
第25条 評議員会は構成員数の2/3の出席をもって成立する(委任状を認める)。
第26条 評議員会の議事は実出席者の過半数をもって可決される。
第27条 監事は年1回、会計監査を行い、評議員会にて報告する。

第7章 会費

- 第28条 本会の運営経費は会員の会費、法人会員の会費その他をもって行う。但し非営利的に運営されねばならない。
第29条 本会の会計年度は毎年1月1日より12月31日までとする。

付 則

- 第1条 本会則は1995年1月1日より発効実施される。
第2条 本会則は評議員会実出席者の2/3以上の同意により変更できる。
第3条 本会の会員の年会費は年額5,000円とする。法人会員の年会費は年額50,000円とする。
第4条 学術集会の会費は当該会長によって決定される。
第5条 本会の会員の年会費を年額10,000円に変更する。
(1996年2月16日改訂)
(1999年2月12日改訂)
(2010年2月11日改訂)
(2012年2月23日改訂)
(2015年4月9日改訂)
(2016年2月18日改訂)
(2018年2月15日改訂)

2019年日本角膜学会理事会議事録

開催日時:2019年2月6日(水)18:00~19:30

場所:室町和久傳

出席者:

理事:井上幸次、大鹿哲郎、外園千恵、堀裕一、前田直之各理事

宮田和典監事

新理事:雑賀司珠也、島崎潤、外園千恵、西田幸二、堀裕一、前田直之、

宮田和典、山田昌和

オブザーバー:山上聡 事務局 三宅啓子 計12名

欠席者:大橋裕一、下村嘉一、坪田一男各理事、横井則彦監事

議長:大鹿哲郎理事長

議題:

日時:2019年2月7日(木)~9日(土)

会場:ウエスティン都ホテル京都

会長:外園千恵(京都府立医科大学)

事前登録 693名

演題登録 234題(一般口演64題、ポスター170題)

招待講演 台湾のHu先生にお願いしている。

昨年と同様、参加者全員の投票により1名に会長から賞を渡す。

Cornea Seminarをプログラム終了後に行う。

ロクシタンの石鹸を皆様に配っているが、視覚障害者支援で売り上げはすべて寄付する。

アスレチックはブラインドサッカーを行う。ハイヒールでなければ大丈夫なので、皆様ご参加ください。ブラインドサッカー協会が朝日スポーツ賞をもらった。

1. 報告事項

1. 選挙結果 大鹿理事長 新評議員

天野史郎、稲富勉、井上智之、井上幸次、白井智之、内尾英一、江口洋、大鹿哲郎、神谷和孝、小泉範子、高静花、小林顕、雑賀司珠也、佐々木香る、島崎潤、白石敦、榛村重人、鈴木崇、外園千恵、高村悦子、近間泰一郎、坪田一男、西田幸二、堀裕一、前田直之、宮田和典、山上聡、山田昌和、横井則彦、渡辺仁

新理事

雑賀司珠也、島崎潤、外園千恵、西田幸二、堀裕一、前田直之、宮田和典、山田昌和

2. 会員の動静 大鹿理事長

1,225名(2019年1月24日現在)、休会者5名、留学1名
本会員 1,225名(2018年1月 1,228名 3名減)
(医師 1,130名 医師以外 95名)
法人会員 19社(2018年1月 20社 1社減)

3. 2018年度会計報告 大鹿理事長(大橋理事)

歳入:例年と大差はない。
歳出:健全ではあるが、調査研究費の支出がなかった。
宮田監事より歳入歳出決算に対する監査を実施した結果、帳簿の記載、証拠書類の保存、管理は適切であり、決算の金額など正確であることを認めた、と報告があった。

4. 第16回学術奨励賞について 大鹿理事長(下村理事)

2018年11月25日(日) ホテルグランヴィア大阪にて選考委員会開催(下村嘉一委員長、崎元卓、西田輝夫、秦野寛、林皓三郎、4委員事務局三宅啓子、田川義継、山口達夫2名欠席)を開催した。
応募者5名を慎重に選考し、下記の1名に決定した。
受賞者
・難波広幸(山形大学)
「視機能の加齢変化と、角膜疾患の疫学的検討:山形県コホート研究(舟形町研究)」

5. 日本角膜学会優秀ポスター賞 大鹿理事長(下村理事)

昨年同様、第一次審査は評議員を3組に分けて行います。
第二次審査は評議員全員で行います。よろしくお願いいたします。

6. 角膜カンファレンス2018 学会報告 大鹿理事長(近間泰一郎会長)

明日、近間先生より報告してもらいます。

7. 角膜カンファレンス2019 学会について 外園千恵会長

名称:第43回日本角膜学会総会・第35回日本角膜移植学会

8. 角膜カンファレンス2020 学会について 山上聡会長

名称:第44回日本角膜学会総会・第36回日本角膜移植学会

テーマ 未来を見つめる角膜研究

日時:2020年2月27日(木)~29日(土)

会場:東京ドームホテル

会長:山上聡(日本大学)

土曜日の午後も一般口演をするつもりである。広い分野にかかわるような基礎の先生をお招きしようと思う。

9. 角膜カンファレンス2021 学会について 大鹿理事長(白石敦会長)

名称:第45回日本角膜学会総会・第37回日本角膜移植学会

日時:2021年2月11日(木)~13日(土)

会場:ひめぎんホール

会長:白石敦(愛媛大学)

10. ウェブサイト関連 前田理事

メールマガジンを送付した(2018年秋号)。コンテンツが問題である。今後回数を増やしたい。学会のことを何回かメールマガジンで宣伝してもよい。

11. 各種委員会

・羊膜委員:大橋裕一、木下茂、澤充、篠崎尚史、島崎潤、外園千恵、西田幸二

新羊膜委員:澤充、篠崎尚史、島崎潤、外園千恵、西田幸二、堀裕一、白石敦

羊膜バンクは増えてきている。

I:京都府立医科大学、愛媛大学、東京歯科大学市川総合病院、富山大学、長崎大学、久留米大学

II:けいゆう病院、大阪大学、秋田大学

・羊膜移植講習会:2019年2月9日(土) 日本角膜学会
2019年10月14日(日)日本臨床眼科学会

・外保連委員:堀裕一(実務)、小林顕(手術)、高村悦子(処置)、山田昌和(検査)、麻酔担当:なし

2020年度保険改定要望項目

2020年度改定に向けて要望事項は昨年の4月に評議員にアンケートをとった。

新規と改正をそれぞれ5項目ずつ出した。

次回保険改正に向けたエビデンス作りについて

12. 各ワーキンググループの進捗状況

・T S-1多施設スタディワーキンググループについて (白石委員)
明日の評議員会で報告してもらおう。

・角膜AI研究について 前田理事
日本眼科学会AMED事業のインフラおよび枠組みを利用して角膜関係

のAI研究を進める。
前眼部写真を用いた研究、前眼部OCTを用いた研究の2つを行っている。
前眼部写真は標準的な写真の撮り方を定めることになる。パイロット的に行ってみる。

13. 日本角膜学会年次報告書の発行 井上理事
今年はじめに発行し、すでに会員・各大学に送付した。
14. 角膜カンファレンスアイバンクセッション担当者 島崎新理事
4年前から角膜カンファレンスのときに行っていたが、一般の眼科医にも知ってほしいので、臨眼のときに行うことになった。角膜学会、角膜移植学会、アイバンク協会の3団体の共催である。
角膜学会からは内野裕一先生(慶應義塾大学)、富田大輔先生(東京歯科大学)をお願いした。
15. コンタクトレンズによる重篤な眼障害合同調査
日本眼科学会からの依頼である。以前にも行ったが、改めて行う。
角膜学会からは土至田 宏先生(順天堂大学静岡病院)、高 静花先生(大阪大学)をお願いした。

II. 協議事項

1. 2019年度予算 大鹿理事長(大橋理事)
収入:例年と変更なし。
支出:角膜カンファレンスの補助が200万円になった。今後色々な事業を行いたい。
2. 学術奨励賞の年齢制限について 大鹿理事長(下村理事)
現在、40歳以下を45歳以下に変更する。
3. 名誉会員について 大鹿理事長
大橋裕一、木下 茂、澤 充、清水公也、下村嘉一の5名を名誉会員に推薦
本人の承諾も得ている。
4. 022年学会について
金沢大学の小林 顕先生が立候補されている。

2022年2月10日(木)~12日(土)
金沢県立音楽堂にて行いたい。

5. 角膜を専門とする医師のあり方について 大鹿理事長
本人の自己申告だけでなく、評議員または教授の推薦状(サイン)をもらう。
6. ACS2020からの協力依頼 西田新理事
2020年12月2日(水)~4日(金) 大阪国際会議場で行う。
Invited lecture を100名くらい呼んでいる。日本はこの分野では進んでいる。角膜学会とのJoint Symposium、座長、シンポジストなどを皆様には非協力をお願いしたい。
京都Cornea Clubは5日(土)に行われる。
7. その他
・角膜カンファレンスからCornea Seminarへの協賛について 外園理事
Cornea Seminarの参加者を招待した。会計はカンファレンスとは分ける。会長の裁量でOKである。
International Poster賞(評議員が選ぶ) 1名に賞を渡す。明日の18時まで投票してほしい。
・角膜移植手術のレジストリを行ってどうか。

2019年新理事会議事録

理事会終了後新理事の担当を以下のように決めた。

理事長	堀 裕一
総務・アイバンク担当	島崎 潤
学術	雑賀司珠也
渉外・社会保険	山田昌和
会計	外園千恵
研究	宮田和典
記録・ホームページ	前田直之
編集	西田幸二

また、後日監事を以下の2名をお願いして快諾された。
井上幸次、山上 聡

2019年第1回日本角膜学会評議員会議事録

開催日時:2019年2月7日(木)7:30~8:30

場 所:ウエスティンホテル京都 東館4F 鳳凰の間

出席者:天野史郎、稲富 勉、井上智之、井上幸次、白井智彦、
内尾英一、江口 洋、大鹿哲郎、小泉範子、高 静花、小林 顕、
雑賀司珠也、佐々木香る、島崎 潤、白石 淳、榛村重人、
鈴木 崇、外園千恵、高村悦子、近間泰一郎、西田幸二、
前田直之、宮田和典、山上 聡、山田昌和、横井則彦
計26名
事務局 井上聖子、三宅啓子 計28名

欠席者:神谷和孝、坪田一男、堀 裕一、渡辺 仁 計4名

議長:大鹿哲郎理事長

議題:

I. 報告事項

- 1.~5 は理事会と同様
6. 角膜カンファレンス2018 学会報告 近間泰一郎会長
昨年広島で開催させていただき、1,090名の参加があった。

会計も滞りなく執行することができた。理事・評議員の皆様にご挨拶いたします。

- 7.~8 は理事会と同様
9. 角膜カンファレンス2021 学会について 白石 敦会長
名称:第45回日本角膜学会総会・第37回日本角膜移植学会
日時:2021年2月11日(木)~13日(土)
会場:ひめぎんホール(昔の愛媛県民文化会館)
会長:白石 敦(愛媛大学)
これから構成を考える。
- 10 は理事会と同様
11. 各種委員会
・羊膜委員会:澤 充、篠崎尚史、島崎 潤、外園千恵、西田幸二、堀 裕一、白石 敦(2人交代した)
羊膜バンクは増えてきている。
・羊膜移植講習会:2019年2月9日(土) 日本角膜学会
2019年10月14日(日)日本臨床眼科学会

- ・外保連委員：堀 裕一(実務)、小林 颯(手術)、高村悦子(処置)、山田昌和(検査)、麻酔担当：なし

2020年度保険改定要望項目

32年度改定に向けて要望事項は評議員にアンケートをとった。重点を2つにしぼる。新規：高次収差解析 改正：前眼部三次元画像解析の適応拡大と角膜移植術における内皮移植加算 羊膜移植の施設基準の緩和はガイドラインを変更すればよいとのことであるので、新委員にお願いしたい。適応がしぼられている。エビデンスを出せばよい。次回保険改正に向けたエビデンス作りについて。

12. 各ワーキンググループの進捗状況

- ・TS-1多施設スタディワーキンググループについて

白石委員
角膜の眼障害と涙道障害に対する前向きスタディである。涙道・涙液学会と角膜学会で行っている。去年の3月にエントリーを終了して1年間フォローアップする。涙液中の薬剤濃度も測っている。2019年3月末にはすべて観察を終了して、統計を行う予定です。

- ・角膜AI研究について

日本眼科学会AMED事業のインフラおよび枠組みを利用して角膜関係のAI研究を進める。
前眼部写真：共通した写真のとり方のスタンダードをつくる。
角膜を専門としない先生が緊急を要する疾患がどうかを判断する。

13～14 は理事会と同様

15. コンタクトレンズによる重篤な眼障害合同調査

日本眼科学会からの依頼があった。コンタクトレンズ学会、角膜学会、角膜移植学会、眼感染症学会の4学会で行っている。角膜学会からは土至田 宏先生(順天堂大学静岡病院)、高 静花先生(大阪大学)にお願いした。

II. 協議事項

1. 理事会と同様

2. 学術奨励賞の年齢制限について 大鹿理事長(下村理事)
40歳以下が応募資格者であるが、初期臨床研究が2年あるので、45歳以下にしてはどうか。認められた。

3. 名誉会員について 大鹿理事長
大橋裕一、木下 茂、澤 充、清水公也、下村嘉一の5名を名誉会員に推薦し、了承された。

4. 2022年学会について
金沢大学の小林 颯先生が立候補されている。
2022年2月10日(木)～12日(土)に石川県立音楽堂で行いたい。認められた。

5. 角膜を専門とする医師のあり方について
自己申告であるが、規定に推薦者を設けてはどうか。今後は評議員あるいは教授のサインをもらうことにする。認められた。

6. は理事会と同様

7. その他

- ・角膜カンファレンスから Cornea Seminarへの協賛について
Cornea Seminarの参加者を招待した。会計はカンファレンスとは分ける。200名の部屋を用意しているので、若い先生に是非参加してほしい。
- ・現在人工角膜を輸入できない状態である。角膜学会あるいは角膜移植学会から働きかけてもらえないか。
- ・角膜移植レジストリを行ってはどうか、と思っている。

2019年日本角膜学会臨時理事会議事録

開催日時：2019年7月6日(土)7:30～8:30

場 所：国立京都国際会館 Room 6 6 5

出席者：

理 事：島崎 潤、外園千恵、西田幸二、堀 裕一、前田直之、宮田和典、
山田昌和 各理事、井上幸次監事
事務局 三宅啓子 計9名

欠 席 者：雑賀司珠也理事、山上 聡監事

議 長：堀 裕一理事長

議 題：

1. 羊膜移植術の施設基準の見直しについて(堀)

現在、羊膜移植を行うことができる施設基準として、常勤眼科医師が3名以上の施設となっているが、羊膜移植術ガイドラインのうち、施設基準の「常勤3名」を「常勤2名」に改定することが提案され承認された。

2. 2020年度診療報酬改定に向けての日本角膜学会の要望(ヒアリング)について(堀)

以下の項目を重点的に要望することとした。
前眼部三次元画像解析の適応拡大(改正)
高次収差解析(新規)
角膜移植術における内皮移植加算(改正)
羊膜移植の併施手術(改正)
マイボーム腺機能検査(新規)

3. 角膜学会主導研究について (堀、島崎、前田)

- 角膜移植術後の抗菌薬の適正使用に関する臨床研究について議論した。特定臨床研究となるため、さらなる検討が必要との結論となった。(堀、島崎)
- 前田理事よりAI角膜研究について説明があり、角膜学会として協力していくことになった。

4. 角膜移植術レジストリ研究について(堀)

学会における角膜移植術情報データベース事業について議論した。日本網膜硝子体学会が主導で行った網膜剥離レジストリを参考に、全例レジストリよりは、評議員などの10施設程度で行うことがよいのではないかと議論になった。どのような研究を行うかは今後、案があれば提出してもらうことになった。また、本件については日本角膜移植学会や日本アイバンク協会とも十分に相談して行うことが確認された。

5. あたらしいアイバンク事業について(堀、島崎)

今後のわが国の全国的なアイバンク活動において、アイバンクの集約化などの新しいアイバンクの形を考えることが提案された。理念として大変重要であるが、現在のところ、アイバンクの運用に関しては、日本アイバンク協会に任せる方向となった。

6. 強膜移植について(外園)

外園理事より、バルベルトなどの新しい緑内障手術の普及で保存強膜の利用が注目されており、アイバンクが幹旋する強膜の正しい利用について、学会で今後検討する必要があるのではないかと問題提起があった。

2018年歳入歳出決算報告書
[自2018年1月1日至2018年12月31日]

歳入	単位(円)		
科目	予算額	歳入額	予算に比し増減
年会費	11,000,000	10,755,000	-245,000
法人会員会費	1,000,000	1,000,000	0
H P 広告料	800,000	800,000	0
雑収入	20,000	29,014	+9,014
利息	1,000	26,360	+25,360
歳入小計	12,821,000	12,610,374	-210,626
前年度繰越金	12,066,348	12,066,348	0
歳入合計	24,887,348	24,676,722	-210,626

歳出	単位(円)		
科目	予算額	歳出額	予算に比し増減
担当校へ補助	700,000	700,000	0
調査研究費	3,000,000	0	-3,000,000
外保連会費	400,000	400,000	0
印刷費	1,000,000	831,600	-168,400
会議費	500,000	272,725	-227,275
学術奨励賞	500,000	383,874	-116,126
消耗品費	200,000	161,969	-38,031
通信・発送費	300,000	353,032	+53,032
旅費	600,000	310,779	-289,221
雑費	150,000	107,782	-42,218
事務委託費	1,836,000	1,836,000	0
選挙関係費用	400,000	309,219	-90,781
会計監査料	100,000	100,000	0
H P 経費	3,000,000	1,334,880	-1,665,120
羊膜移植講習会	700,000	370,055	-329,945
予備費	400,000	0	-400,000
支出小計	13,786,000	7,471,915	-6,314,085
次年度繰越金	11,101,348	17,204,807	+6,103,459
支出合計	24,887,348	24,676,722	-210,626

日本角膜学会 2019年度予算案

歳入	単位(円)		
科目	2018年度 予算額	2019年度 予算額	差額
年会費	11,000,000	11,000,000	0
法人会員会費	1,000,000	950,000	-50,000
H P 広告料	800,000	800,000	0
雑収入	20,000	20,000	0
利息	1,000	1,000	0
歳入小計	12,821,000	12,771,000	-50,000
前年度繰越金	12,066,348	17,204,807	+5,138,459
歳入合計	24,887,348	29,975,807	+5,088,459

歳出	単位(円)		
科目	2018年度 予算額	2019年度 予算額	差額
担当校へ補助	700,000	2,000,000	+1,300,000
調査研究費	3,000,000	3,000,000	0
外保連会費	400,000	400,000	0
印刷費	1,000,000	1,000,000	0
会議費	500,000	500,000	0
学術奨励賞	500,000	500,000	0
消耗品費	200,000	200,000	0
通信・発送費	300,000	300,000	0
旅費	600,000	500,000	-100,000
雑費	150,000	150,000	0
事務委託費	1,836,000	1,836,000	0
選挙関係費用	400,000	0	-400,000
会計監査料	100,000	100,000	0
H P 経費	3,000,000	3,000,000	0
羊膜移植講習会	700,000	700,000	0
予備費	400,000	400,000	0
支出小計	13,786,000	14,586,000	+800,000
次年度繰越金	11,101,348	15,389,807	+4,288,459
支出合計	24,887,348	29,975,807	+5,088,459

